

: 山口県で陽性が確認されたもの

3 ウシの調査結果

検査対象		感染症名	検査方法	実施年度	陽性/ 検査件数	検出率 %
ウシ ※	口腔	腸管出血性大腸菌感染症	細菌培養	H18～21	24/200	12.0%
			ベロ毒素 遺伝子検出		42/150	28.0%
	体表		細菌培養	H18	0/ 50	0.0%

※ 生後1か月程度の子牛

動物の各カテゴリーと動物由来感染症の関係

動物を生活環境により分類した場合、それぞれのカテゴリー（群）と動物由来感染症の関連性が見いだせます。

カテゴリー（群）	動物由来感染症との関連
ペット（伴侶動物）	イヌやネコからうつることは少ないが、病原体は持っている。 ヒトと密接にふれあうことで感染することがある。
野生動物	どのような病原体を持っているか不明なことが多い。 重篤な感染症の病原体を持っている可能性がある。
家畜	畜産品等による食中毒の原因となる場合がある。 衛生対策の徹底で予防可能な感染症が多い。
展示動物	ヒトと動物とがふれあえる施設では、不特定多数のヒトが接触することから、動物由来感染症に配慮した対策が重要

動物由来感染症の病原体

動物由来感染症の原因となる病原体には、大きいものでは数センチ（時には数メートル）もある寄生虫から電子顕微鏡を用いなければ見ることのできないウイルスまで、様々な病原体があります。また、最近では従来の微生物の概念とは異なるプリオンという異常タンパク質までもが動物由来感染症の原因となることが分かっています。

病原体	引き起こされる感染症の例
ウイルス	狂犬病、日本脳炎、ウエストナイル熱、デング熱、E型肝炎、SFTS
リケッチア・コクシエラ・クラミジア	Q熱、オウム病、日本紅斑熱、つつが虫病
細菌	サルモネラ症、レプトスピラ症、猫ひっかき病、ブルセラ症
真菌	皮膚糸状菌症、クリプトコッカス症
寄生虫	トキソプラズマ症、回虫症、クリプトスポリジウム症、アニサキス症
プリオン	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)

注意を要する感染症（ウシ）



唾液、糞便を介した感染

腸管出血性大腸菌感染症

〈症状〉

- ・腹痛、下痢、嘔吐などの食中毒症状
- ・重症化すると、激しい腹痛と血便を主症状とする出血性大腸炎を呈する
- ・まれに溶血性貧血※、血小板減少及び急性腎不全を3主徴とする溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発し、死亡することもある

※ 溶血性貧血：赤血球が破壊されることによっておこる貧血

- 多くのウシから腸管出血性大腸菌が検出されています。
- 動物とふれあった後は、必ず手洗いなどをしましょう。

予防方法

- 動物の糞便を適切に処理する。
- 動物との過剰なふれあいを避ける。
- 動物と接触した際は、手洗いを励行する。

